

第1回 主会場選定専門委員会 議事録（概要）

1 日時

平成25年(2013年)11月8日(金) 9:30~12:00

2 場所

滋賀県庁新館4階 教育委員会室

3 出席委員（五十音順、敬称略）

宇田川 真之、大西 美和、清川 佳子、坂 一郎、辻井 弘子、中井 敏勝、原陽一、平林 光彦、松田 保、山崎 薫、横山 勝彦、吉田 政幸
(欠席委員：北沢 繁和、小浦 久子、西條 智晴)
(事務局：河原教育長（あいさつの後、途中退席）、木村事務局長、事務局職員)

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

(1) 委員長・副委員長の選出

※委員の互選で、横山委員を委員長に、大西委員を副委員長に選出。

(2) 説明・報告事項

※事務局より、次第5(1)から(5)について説明。

【質疑】

(委員)

一巡目の主会場はどのようにして決まったのか。

(事務局)

資料が残っておらず不明だが、国体の報告書を見る限り、市町からの招致活動があり、複数の候補地の中から大津市(皇子山陸上競技場)に決まったとされている。

(委員)

前回皇子山に決まったのも、県の予算がなかったからと聞いている。今回の主会

場についても、県民の理解が得られる規模で、など、懇話会の報告との関係の中でどう議論するのか。

(事務局)

懇話会は国体全般について議論いただいたもの。本委員会は主会場に特化して議論を深めていただく場であり、国体が終わったあとの利活用も含め、いろんなご意見をいただきたい。あとは様々な制約がある中で、それをどう具現化していくかということになるかと思う。

(3) 審議事項

※事務局より、【資料6-1】から【資料6-5】について説明。【資料5】【資料6】の内容につき、2回目以降の資料作成の要件として承認を得た。

【質疑】

(委員)

ポスト国体を考えると、主会場周辺の人口、企業や学校の集積が大事。大会後の活用を見据え、候補地の周囲でどれだけの立地があり、利用が見込めるのかを調べていただきたい。

(事務局)

次回お示しする図面には、施設の敷地内だけでなく、交通アクセスや企業・学校の立地も含めた周辺の状況もわかる広域の図面も整理してお示ししたいと考えている。

(委員)

県内で大きな大会を開催する際に困るのが宿泊や食事の場所。後々の利用を考えると、宿泊施設や食事をとれる場所のことも十分踏まえ検討する必要がある。

(事務局)

宿泊の問題は主会場だけでなく、他の競技など国体全体に共通する重要な問題と認識している。

(委員長)

スポーツツーリズムなど、日帰りで帰すのではなく滞在してもらい地域が潤うようにしよう、という流れもある。

海外のスポーツ施設は、試合がなくても住民が利用できるような、地域に溶け込む工夫をしている。人を寄せる装置を施設につくり、リピーターをつくっていくという視点も重要。それがネーミングライツを導入する際の、スポンサー側のメリッ

トにもつながる。

(委員)

競技場だけをつくるならそんなにお金はいらませんが、人が育つ、仲間ができる居心地のいい場所をつくろうと思えば、それなりにお金がかかる。海外のオリンピック会場でも、大会後の利用がなく廃墟になっているところも多い。施設だけ造って後何も残らない、ということにならないようにしなければならない。

(委員)

滋賀のファンを育てる、という意義からも、候補地の周りの観光資源についても調べてほしい。

(委員)

競技場の屋根に、ソーラーパネルを県民が一口ずつ負担し設置するのも一つの方法。負担をすればその場所に行きたくなるもの。

(委員)

リスクマネジメントの観点からも、多目的な、どんな場合でも使い勝手がいい施設を造ることが必要。そのためには運動場内のスペースや、外からのアクセスが大事。災害時には消防隊や自衛隊等の進出拠点となるため、高速道路からの良好なアクセスが重要となる。

スペースも重要。仮設テント等を建てる場所も必要であり、様々なパターンで駐車場等を使えるようにしておくことで、国体終了後の平常時の使いやすさや、防災時の活用にもつながる。

段差への配慮など、ユニバーサルデザインは障害のある方のためだけでなく、物資運搬を考えるとときにも重要である。

(事務局)

国体開催時の運営だけでなく、後利用も重要な要素であり、図面化する際には十分検討したものをお示ししたい。

(委員)

1 巡目国体の後の「身体障害者スポーツ大会」の際にスタッフとして活動した際、選手の方から着替えの場所やトイレを充実させてほしいということ伺った。そういった配慮もお願いしたい。

(委員)

今から整備する箇所は、その場所、その地盤に建築しても大丈夫か、ということをしっかり検証する必要がある。

(事務局)

コンサルタント業者にも入っていただいております、都市計画課や建築課なども含め、技術的なリスクも議論したうえで案をお示ししたい。

(委員)

競技運営の面から、合理的な動線が確保できる施設配置が重要。競技場と補助競技場が離れているとか、間に道路がある、ということは避けるべきだし、フラットな状態でつくることも必要である。

また陸上競技の場合、タイム計測は1000分の数秒の単位と厳格であり、安定した走路が必要。選定においても、あるいは選定された敷地の中でも地盤がしっかりしたところを選ぶ必要がある。

(委員)

前回国体時には「身体障害者スポーツ大会」であったが、2001年から知的障害者の大会が統合された。将来的には精神障害者の参加も拡大する方向であり留意する必要がある。

新たに整備するのであれば、起伏のある場所でなく、できるだけ平地が望ましい。また障害者スポーツ大会の選手団は、全員がバスで宿舎から会場入りし、終日一緒に行動することになるため、バス移動や、駐車場の確保について、国体以上に留意した検討をしていきたい。

(事務局)

動線には十分配慮した図面をお示ししたい。その上で次回皆様にご確認いただき、必要な修正のためのご意見をいただきたい。

次回お示しするのは基本的に平面図になるため、起伏の詳細までお示しすること難しいと思うが、お気づきの点はこのように意見として出していただくことで配慮できる。

(以上)